



# インフォメーション・コーナー

## 会 告

|   |    |
|---|----|
| ○2023年度(第72回)農業農村工学会大会講演会の参加申込み  WEB 事前参加登録 6月1日～7月31日 | 58 |
| ○2023年度(第72回)農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み(再) 申込締切6月30日   | 59 |
| ○今年もやります! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2023” 応募締切7月31日   | 59 |
| ○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」の発刊   | 60 |
| ○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付   | 60 |
| ○技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正  | 61 |
| ○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載   | 61 |
| ○技術提案書の評価基準で技術士 CPD が評価されるようになりました  | 62 |
| ○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!   | 62 |
| ○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内   | 62 |
| ○「水土の知(農業農村工学会誌)」 閲読ご協力のお礼  | 62 |
| ○「農業農村工学会論文集」 査読ご協力のお礼  | 63 |
| ○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!   | 63 |
| ○2024年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日  | 64 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと<br>2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局   | 65 |
| ○第60回アイソトープ・放射線研究発表会の開催 7月5～7日開催  | 66 |
| 農業農村工学会論文集 内容紹介   | 67 |
| 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌 最新号掲載論文紹介   | 68 |
| 農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧                    | 70 |
| 学会記事  | 72 |

### 第91巻第6号予定

展望: ウイズ生成系 AI の時代を生きる: 溝口 勝

小特集: データ駆動型社会の実現に向け加速する ICT・解析技術

報文: レーザ計測による農業水利施設の三次元損傷データの構築: 柴野一真ほか

報文: 材料施工研究への機械学習適用と解析精度へ及ぼす要因分析: 島本由麻ほか

報文: スマート農業経営の展開条件と政策的課題: 木下幸雄

報文: DX 時代における農業水利施設保全へのロボットの活用: 中山宣洋ほか

報文: ICT 自動給水栓の作動履歴から見た山腹用水路の灌漑特性: 竹下伸一ほか

報文: 画像解析を用いたゲート開度監視システムの実用化にむけて: 中田 達ほか

報文: WebGIS によるドローンシェアリングシステムの構築とデータ連携: 佐藤のぞみほか

### 技術リポート

北海道支部: QGIS を用いた整備履歴蓄積作業の課題とその対応: 守山耕一ほか

東北支部: 令和4年8月の豪雨で被災した白川幹線用水路の応急対策と復旧計画: 高橋宏紀ほか

関東支部: 道路横断暗渠における基礎工法検討: 西宮悠祐

関東支部: 令和4年台風15号災の農地・農業用施設災害復旧事業の取組み: 西村 光ほか

京都支部: 門型リフター併用開削型シールド工法による水路改修事例: 大坪 寛ほか

中国四国支部: 老朽化が進む用水路の更新事業: 谷本孝司

九州沖縄支部: 筑後川下流左岸地域におけるクリークの先行排水: 苑田幸助

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

| 開催日                 | 主催      | 行事名                      | テーマ | 開催場所 | 掲載号                     |
|---------------------|---------|--------------------------|-----|------|-------------------------|
| 2023年8月<br>29日～9月1日 | 大会運営委員会 | 2023年度農業農村工学会大会<br>講演会 Ⓟ | —   | 愛媛県  | 90巻12号, 91<br>巻1, 3, 5号 |
| 2023年10月<br>26, 27日 | 九州沖縄支部  | 令和5年度(第104回)支部大会 Ⓟ       | —   | 那覇市  | 91巻4号                   |
| 2023年11月<br>28, 29日 | 京都支部    | 第80回研究発表会 Ⓟ              | —   | 津市   | 91巻4号                   |

### 2023年度(第72回)農業農村工学会大会講演会の参加申込み

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2023年度(第72回)農業農村工学会大会講演会は、2023年8月29日(火)～9月1日(金)の4日間、愛媛大学城北キャンパス(愛媛県松山市)およびANAクラウンプラザホテル松山で開催されます。本稿では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録(事前登録)は、2023年6月1日から7月31日までです。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌第7号(Vol.91/No.7)でお知らせします。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

#### 1. 開催要領

- (1) 開会式および学会賞授与式：
  - 8月29日(火) 13:30～
  - 会場 愛媛大学城北キャンパス 南加記念ホール  
愛媛県松山市文京町3  
TEL: 089-927-9000 (代)
- (2) 交流会(予定): 8月29日(火) 18:00～
  - 会場 ANAクラウンプラザホテル松山  
愛媛県松山市一番町3-2-1  
TEL: 089-933-5511 (代)
- (3) 講演会: 8月29日(火), 30日(水), 31日(木)
  - 会場 愛媛大学城北キャンパス
- (4) 現地研修会(予定): 9月1日(金)
  - 愛媛県松山市, 宇和島市方面

開会式および交流会などの開始時間については、プログラムととも本誌第7号に掲載します。

#### 2. 申込方法

2023年度(第72回)農業農村工学会大会専用ホームページ(2023年6月1日～7月31日開設)から参加登録(事前登録)をしてください。8月1日以降は当日登録のみとなります。こ

の専用ホームページは農業農村工学会のホームページからもリンクされます。専用ホームページによる登録ができず、その他の方法での申込みを希望する場合は、「7. (1) 参加申込みに関する問合せ」までご連絡ください。

#### 3. 参加費用

- (1) 大会参加費用と内容：

| 区分          | 事前登録(7/31まで) | 当日登録    |
|-------------|--------------|---------|
| 一般          | 8,000円       | 10,000円 |
| 学生          | 0円           | 0円      |
| 一般(オンライン聴講) | 8,000円       | 10,000円 |
| 学生(オンライン聴講) | 0円           | 0円      |

- (2) 交流会参加費：

詳細については、農業農村工学会大会専用ホームページ、および本誌第7号に掲載します。

- (3) 現地研修会参加費：

詳細については、農業農村工学会大会専用ホームページ、および本誌第7号に掲載します。

#### 4. 昼食

会場内および周辺には飲食店やコンビニが多数ありますが、弁当の事前予約を受け付けます。農業農村工学会大会専用ホームページでの参加登録(事前登録)の際にお申し込みください。なお、大会当日の弁当販売は行いません。

#### 5. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しません。あらかじめご了承ください。

#### 6. 会場までの交通案内

愛媛大学城北キャンパス、およびANAクラウンプラザホテル松山までのアクセスにつきましては、以下のウェブサイトをご参照ください。

愛媛大学城北キャンパス

<https://www.ehime-u.ac.jp/about/access/>

ANAクラウンプラザホテル松山

<https://www.anacpmatsuyama.com/access/>

7. 問合せ先

- (1) 参加申込みに関する問合せ  
 近畿日本ツーリスト(株)公務営業支店  
 「農業農村工学会 2023 年度大会講演会」係  
 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町 1-13  
 住友商事神田和泉町ビル 13 階  
 E-mail : ecc5-02@or.knt.co.jp
- (2) 大会全般に関する問合せ

2023 年度農業農村工学会大会事務局 久米 崇  
 〒790-8566 愛媛県松山市榑味 3-5-7  
 愛媛大学大学院農学研究科  
 TEL : 089-946-9858  
 E-mail : kume@ehime-u.ac.jp

8. 大会実行委員会

委員長 治多伸介  
 愛媛大学大学院農学研究科

2023 年度（第 72 回）農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み（再）

2023 年 8 月 29 日（火）、30 日（水）、8 月 31 日（木）の 3 日間、愛媛大学城北キャンパス（愛媛県松山市）で開催されます 2023 年度農業農村工学会大会講演会において、企業展示を行うとともに大会講演会概要集への広告掲載を行います。企業展示もしくは広告掲載を希望される企業は、下記要領によりお申し込みください。

1. 企業展示

愛媛大学城北キャンパス 共通教育棟（予定）  
 ※具体的な場所や条件はお問い合わせください。  
 なお、展示スペースの関係上、申込み先着 20 社までとさせていただきます。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載（A4 判モノクロ印刷）  
 ※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

- ① 広告 1 ページ 60,000 円（税込）
- ② 広告 1/2 ページ 30,000 円（税込）
- ③ 企業展示（屋内） 80,000 円（税込）
- ④ 広告 1 ページ + 企業展示（屋内） 120,000 円（税込）
- ⑤ 広告 1/2 ページ + 企業展示（屋内） 100,000 円（税込）

4. 申込方法

- (1) 申込用紙の送付  
 所定の申込用紙（農業農村工学会大会講演会のページ（<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>）に掲載）を、また、企業展示の場合は、(2) に示す展示概要（任意様式）を大会事務局に送付（E-mail 添付）。その後の手順は以下のとおりです。

a（大会事務局）申込み受付後、貴社へ連絡

- b（貴社） 広告原稿の送付（広告の場合）、資料用原稿の送付（企業展示の場合）
- c（大会事務局） 請求書の発送、大会講演会概要集の発送（広告の場合）、企業展示資料の発送（企業展示の場合）
- d（貴社） 振込み
- e（大会事務局） 領収書発送

(2) 展示概要

展示する内容および必要物品等（要電源、机、イス等）、希望事項等を任意様式で作成・提出してください。基準面積は幅 1.8m × 奥行き 1.5m（屋内）です。

(3) 申込期限 2023 年 6 月 30 日（金）まで

(4) 振込先

- ・金融機関：伊予銀行
  - ・店 名：東野支店
  - ・店 番：132
  - ・預金種目：普通預金
  - ・口座番号：1464479
  - ・口座名義：2023 年度農業農村工学会大会講演会実行委員会
- 事務局長 久米崇

(5) 申込み・問合せ先

2023 年度農業農村工学会大会事務局 久米 崇  
 〒790-8566 愛媛県松山市榑味 3-5-7  
 愛媛大学大学院農学研究科  
 TEL : 089-946-9858  
 E-mail : kume@ehime-u.ac.jp

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像！ 2023”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

- 1. 応募締切 2023 年 7 月 31 日（月）17：00
- 2. 動画の制限時間 60 秒以内

3. 2023 年度のテーマ 「こんなにも！農業農村」

4. 応募資格 どなたでも応募できます。

5. 応募方法 動画を YouTube へ指定されたタグを付けてアップロードする。

6. **審査方法** 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. **賞金** 最優秀賞(1作品) 2万円  
優秀賞(2作品) 各1万円
8. **アップロード方法**
- ① 動画を作成する。
  - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
  - ③ タグに3つのワード(jsidre2023, こりゃ映像, 農業農村)を入れる。
  - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
  - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画 WT (new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。  
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube 動画の URL)
9. **参考資料**
- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法  
<http://douga-tec.com/?p=4974>

- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門  
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
- ＜参考＞こりゃ映像2022 結果  
最優秀賞：水の守り人 新米(ルーキー) 参上～水利用のしくみを知る～  
野洲川土地改良区 鍋家可捺  
内外エンジニアリング(株) 藤原千里  
<https://youtu.be/vHusUcfeBs>  
優秀賞：牧草地の雑草駆除の開発—薬剤使用量8割減をめざして—  
東京農業大学生物産業学部 松村寛一郎  
[https://www.youtube.com/watch?v=oC\\_mVox6LqQ](https://www.youtube.com/watch?v=oC_mVox6LqQ)  
優秀賞：交流からみた農業農村～とやま婦農塾～  
富山県農林水産部農村振興課 竹口 輝  
<https://youtu.be/sDIBY1TLpgg>

## 新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」の発刊

令和4年5月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」(農林水産省農村振興局編集)を2023年3月10日に発刊いたしました。

＜制定の趣旨より抜粋＞

…(中略)…、現行基準が制定された平成16年3月から十数年が経過した。その間に蓄積された計画設計技術の知見、新たに開発された調査手法、地すべり防止区域及び地すべり防止施設の管理を行う重要性の増大等による農地地すべりを取り巻く社会情勢の変化等を反映させる必要が出てきた。

これらのことを踏まえ、概成に関する項目を新たに設けることとともに、所要の改定を行い、一層の効率的かつ効果的な事業実施に資するものである。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

### 1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書  
編集：農林水産省農村振興局  
価格：4,180円(税込)、送料：1冊200円(最大600円)  
規格：A4判 561ページ

発行日：2023年3月10日

### 2. 申込み方法

#### I. 個人、法人の場合(賛助会員を除く)

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。  
振替口座番号：00160-8-47993  
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。
- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

#### II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書  
をE-mailまたはFAXでお送りください。

### 3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
(公社)農業農村工学会事務局 図書係  
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494  
E-mail：suido@jsidre.or.jp

## お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2023年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕

を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減か

ら人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）  
（※特に記載がなければ（1）として扱います。）
- (2) 条件を付した寄付  
選定条件【  
① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進  
・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進  
② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進  
・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発  
③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究

の推進

- ・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術
- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進  
・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理  
・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など  
詳しくは学会ホームページ ([http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin\\_kifuno-onegai/](http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/)) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受けられます。

### 技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正

農業農村工学会技術者継続教育機構では、CPD 記録の不正な申請行為等を抑止するため業務運営要領等の一部改正し、2023 年 4 月 1 日から施行いたします。

#### 1. 改正の理由

技術者継続教育機構では、技術者は倫理観を備えているとの前提でルールを構築していたため、現行規程の下では登録の抹消以外に不正行為に対応する内容を定めていませんでした。しかしながら、CPD 取得証明の持つ社会的意義の重大化に伴い、CPD 制度の運営機関の責任として不正行為を抑止する仕組みが必要であることから、「技術者継続教育機構業務運営要領」および「技術者継続教育機構業務運営細則」に不正行為の定義を明示しそれらを行った登録者に課すペナルティを定めることにより、不正行為の抑止を図るとともに発生した不正行為に迅速に対処することとしました。

速に対処することとしました。

#### 2. 改正の範囲

- (1) 技術者継続教育機構業務運営要領の一部改正
- (2) 技術者継続教育機構業務運営細則の一部改正

#### 3. 施行日 2023 年 4 月 1 日

#### 4. ガイドラインの制定

新たに定められた制限事項はありません。不正行為の範囲を明確にするため「登録者の不正行為に関する判定とペナルティのガイドライン」を定めました。また、ガイドブックなどにペナルティの対象となる事案を例示することで、登録者の理解を深めます。

詳細は技術者継続教育機構ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) をご参照ください。

### CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

## 技術提案書の評価基準で技術士 CPD が評価されるようになりました

農林水産省では、建設コンサルタント等の選定・特定事務手続き上の細部運用を改正（令和5年4月3日付）し、予定管理技術者の業務執行技術力の評価項目で、農業農村工学会技術者継続教育機構において取得したCPDにより「技術士（CPD認定）」に認定されている場合に、評価点1点が加算されるこ

ととなりました。

「技術士（CPD認定）」の認定要件については、日本技術士会ホームページ([https://www.engineer.or.jp/c\\_topics/008/008035.html](https://www.engineer.or.jp/c_topics/008/008035.html))をご確認ください。

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水士の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

### 3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌5号掲載の問題は6月末日が解答期限）

### 5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

### 6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

## 改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

### 改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/nnj/202101/yougogiten-web.html>) で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会Web上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6

版用語事典Web上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記E-mail宛にお申し込みください。

[suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典PDF版およびWeb版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

## 「水士の知（農業農村工学会誌）」 閲読ご協力のお礼

「水士の知（農業農村工学会誌）」は、2022年度において、第90巻第4号～第91巻第3号の12冊を発行することができました。これもひとえに昨年度の一年間に閲読のご協力をいた

だきました約65名の方々のご尽力の賜と感謝いたします。

今後ともご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、個人情報保護法の観点から、閲読者のお名前是非公表

とさせていただきます。

「農業農村工学会論文集」 査読ご協力のお礼

農業農村工学会論文集は、2022年度において、研究論文29本、研究報文8本、研究ノート15本をJ-STAGEに公開することができました。これもひとえに昨年度の一年間に査読のご協力をいただきました約130名の方々のご尽力の賜と感謝い

たします。

今後ともご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、個人情報保護法の観点から、査読者のお名前は非公表とさせていただきます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第91巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ                              | 要 旨 締 切<br>(A4判1,500字程度) |
|--|--------------------------|
| 第91巻第6号 データ駆動型社会の実現に向け加速するICT・解析技術（仮）    | 終了                       |
| 7号 大会特集号（中国四国支部）                         | 公募なし                     |
| 8号 ——                                    | 公募なし                     |
| 9号 農地の利用について考える（仮）                       | 終了                       |
| 10号 技術者のスキルアップへの取組み（仮）                   | 終了                       |
| 11号 農業水利施設の管理、保全、更新に係る技術的課題と課題解決への取組み（仮） | 5月10日                    |
| 12号 ——                                   | 公募なし                     |
| 第92巻第1号 ——                               | 公募なし                     |
| 2号 防災重点農業用ため池の整備における現状と課題の解決策（仮）         | 8月10日                    |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

第91巻第11号小特集テーマ

「農業水利施設の管理、保全、更新に係る技術的課題と課題解決への取組み」（仮）

農業水利施設は、わが国の食料供給と農業・農村の多面的機能の発揮に不可欠な国民的資産となっており、基幹的な用排水路だけでも約5万km、末端も含めれば40万km以上という膨大な資産を形成しています。戦後から高度経済成長期急速に整備が進められたこれらの施設は老朽化が進行しており、現在、これら施設の機能を効率的に保全していくためのストックマネジメントの取組みが進められています。また、近年では、農業者の高齢化・減少等に対応するため、スマート農業の実装を可能にする施設整備が求められています。

新たな土地改良長期計画（令和3年3月23日閣議決定）に

おいては、政策課題に「農業・農村の強靱化」、「生産基盤の強化による農業の成長産業化」が位置づけられており、ICT等の新技術を活用した農業水利施設の戦略的保全管理や、スマート農業推進の観点から多様化する水需要に柔軟に対応するICT水管理等を可能にする農業生産基盤整備を推進する視点が盛り込まれています。今後の農業水利施設のストックマネジメントにおいては、地域の実情に応じて新技術の導入を適切に図ることで、施設の長寿命化や機能保全を効率的に推進することが重要になると想定されます。また、農業水利施設では、従来の幹線系の通信システムであるTM/TCに加えて、支線系

から圃場までの情報インフラの整備等による新たな管理体制作りが検討されています。

こうした状況を踏まえ、第91巻第11号では「農業水利施設の管理、保全、更新」に焦点を当てた小特集を企画します。

## 第92巻第2号「防災重点農業用ため池の整備における現状と課題の解決方策」(仮)

全国には、「防災重点農業用ため池特別措置法(令和2年10月制定)」(以下、「ため池工事特措法」という)に基づき都道府県知事が指定した防災重点農業用ため池が、約5万4千カ所存在(令和3年7月末時点)しており、防災工事等を令和12年度までに完了することを目指し、劣化状況の調査や防災工事が進められています。また、防災工事等の推進に当たっては、ため池工事特措法で定める「防災重点農業用ため池に係る防災工事等基本指針」において、農業用ため池が有する生物の多様性の確保をはじめとする自然環境の保全等の多面的な機能にも配慮することが重要と定められており、環境との調和に配慮した事業が求められています。

したがって、農業農村工学分野からも、限られた期間の中で膨大なため池の整備について、優先度の高い農業用ため池の選定、堤体や洪水吐等の劣化状況調査等、事前の環境調査および環境配慮対策をどう考えていくのかが必要といえます。

### 2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿原稿およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/journal/>)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌」原稿執筆の手引き

スマート農業に対応するための農業水利施設の管理や整備、あるいはICT、AI等の新技術を活用した施設の点検や機能診断のさらなる省力化・高度化といった農業水利施設の保全や更新に関して、多様な視点からの報文を募集します。

ため池特措法の施行から2年以上が経過した現状において、多数の農業用ため池の調査および防災工事を短期間で実施することが求められていること、営農者の減少により実質的に取水源として使用されていないため池の取扱い、また、利用実態のないまま放置されている小規模ため池であっても、防災上の視点にとどまらず、希少種の生息状況の調査や生物多様性保全に着目した整備が必要等の多くの課題が指摘されています。

そこで、本小特集では、地方公共団体で多数の防災重点農業用ため池を対象とした防災工事等の計画手法の知見として、①多数のため池を対象とした、ため池の優位付けや対策工法の新技術の事例、②農業用水としての利用実態がないため池の廃止工事や廃止工事を行わず残置した際の関係者間の調整事例、③ため池の防災・廃止工事を計画する上で、事業計画段階での環境調査と環境配慮方策の考え方、その工事中と工事完了後の調査事例等、幅広く報文を募集します。

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

## 2024年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2024年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

### 趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

### 記

#### 1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など:現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

#### 2. 対象巻号 学会誌第92巻(2024年第1~12号)

#### 3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含むA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含みます。なお、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mm、B4は257×364mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。



4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2023年6月30日

夏季 2023年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りま

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第92巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2024年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」（略称：PAWE）を発行しています。なお、Paddy and Water Environment誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2021年のインパクトファクター（IF）は1.554と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、

災害防止など）

- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界11カ国からEditor（20名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2022年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・ Editors 13カ国から20名

- ・ Editorial Advisors 30名
- ・ Chief Managing Editor  
Dr. Chihhao FAN  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Taiwan, ROC
- ・ Managing Editors  
Dr. Eunmi HONG  
School of Natural Resources and Environmental Science,  
Kangwon National University, Korea
- Dr. Taeil JANG  
Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk  
National University, Korea
- Dr. Kuo-Wei LIAO  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Taiwan, ROC
- Dr. Tasuku KATO  
Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture  
and Technology, Japan
- Dr. Katsuyuki SHIMIZU  
Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan
- Dr. Soji SHINDO  
Rural Development Division, Japan International  
Research Center for Agricultural Sciences(JIRCAS),  
Japan

編集事務局 (2024年6月まで台湾担当)

- Dr. Chihhao FAN  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Taiwan, ROC  
No. 1, Section 4, Roosevelt Road, Taipei, Taiwan,  
ROC  
TEL : +886-2-3366-3476  
FAX : +886-2-2363-5854  
E-mail : chfan@ntu.edu.tw
- 投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。
- 投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。
- 投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。
- 発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)
- 購読料 : 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)  
学生会員 (院生含む) 4,950円 (税込)
- 非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。
- なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。
- 申込先 : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

## 第60回アイソトープ・放射線研究発表会の開催

1. 主催 (公社)日本アイソトープ協会  
協賛 農業農村工学会ほか  
後援 応用物理学会ほか
2. 日時 2023年7月5日(水)～7日(金)
3. 会場 日本科学未来館  
〒135-0064 東京都江東区青海 2-3-6
4. 問合せ先

- (公社)日本アイソトープ協会  
〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45  
E-mail : [happyokai@jrias.or.jp](mailto:happyokai@jrias.or.jp)
- 5. その他  
詳しくは、第60回アイソトープ・放射線研究発表会のホームページ (<https://confit.atlas.jp/guide/event/jrias2023/top>) をご覧ください。